高学年学級の話し合い開始期における教師の助言的介入

岩田美保（千葉大学）

キーワード：児童，学級，話し合い

問題と目的

学級での話し合い場面は，児童たちが意見を交換し合い，発話を生成していく場である（藤江，1999)。こうした中で，児童間の自主的な話し合いがどのように可能になっていくかは重要な検討課題といえる。筆者たちのこれまでの検討から，学級（6 年学級）での話し合い開始期において，児童たちが話し合いの進行そのものに困難さを抱える状況が少なくなく，教師はそれに応じて幅広い助言的介入を行っていることが推察された（岩田・佐藤，2019，日心大会)。本研究は高学年期における話し合い開始期の教師の助言的介入についてより焦点化して調べるために,5 年学級および 6 年学級の児童同士の話し合い場面での，特に困難が予測される，話し合い開始期（1 か月間）に着目し，検討を行う。

方　法

研究協力者　首都圏にある小学校の 6 年および 5 年の 2 学級（39 名学級)，担任はいずれも 30 代の男性教諭。

観察内容　6 年Ａ学級（5 月）と 5 年Ｂ学級（7 月）において，特別活動での学級全体の話し合い場面の観察を行った。いずれの学級も教師は児童間で自主的な進行ができることを意図し指導にあたっていた。なお，5 年Ｂ学級については，学級全体の話し合いが開始された 7 月中に行われた話し合い（1 回)，6 年Ａ学級については，同様に話し合いが開始された 5 月中に行われた話し合い(2 回）を分析対象とした。

分析　話し合いの音声・映像記録からプロトコルデータを作成し，教師の発話に基づきその介入内容について分析を行った。

結果と考察

Table 1 に学級での話し合い開始期にみられた教師の介入内容を示した。学級全体としての自主的な話し合いが開始されたばかりの 5 年Ｂ学級(7 月）では,【話し合いの流れ】,【話し合いの論点】,【感情的側面】,【話し合いルール】,【決定方法】について助言的介入がなされていた。特に，話し合いの進行そのものに関わる【話し合いの流れ】（「1 番チームの人。1 番の人，手あげてください。確認しましょう」等)，【話し合いの論点】（「あと 1 個考えてほしいのは（中略）クラスの約束です。これいいことだっていいんだよ」等)については，それぞれ複数回（順に 4 回，3 回）の介入がみられた。5 年Ｂ学級では，それまで，ペアやグループの話し合いが中心であった。そのため，学級全体の話し合いが開始されたばかりの当該の状況では，話し合いそのものをどのように進行するかという点に関わるスキルがまず必要となるものであったことが推察される。また，教師の介入のうち，【話し合いの論点】,【決定方法】については，児童の発言に対するフィードバック介入も含まれた。特に【決定方法】については，肯定的なフィードバックがなされ（「さっき議長の人上手だね，完全にだめじゃなくて。確かにいい意見言ってました」)，当該のやりとりでみられた児童の決定のあり方を教師が評価していることがうかがえた。

一方，6 年Ａ学級（5 月）においては，学級全体の話し合いが 5 年Ｂ学級（7 月）と比べて早期から開始された。開始期（1 回目，2 回目）を通してみると，話し合いの進行に関わる,【話し合いの流れ】と【決定方法】について，複数回の教師の介入がなされており，話し合いの開始期に児童たちが難しさを感じやすい部分であることがうかがわれる。また，6 年Ａ学級と，5 年Ｂ学級に共通にみられた助言的介入は【話し合いの流れ】,【決定方法】,【話し合いルール】であった。それらは話し合いのテーマ等によっても影響を受ける可能性はあるが，高学年児童たちが話し合い開始期に難しさを抱えている部分とも捉えられる。同時期の円滑な話し合いの成立に向け，これらについての理解やスキルを促すことが高学年期の話し合い開始期において重要となることが推察される。

Table 1　5，6 年学級の話し合い開始期（1 か月）における教師の介入の内容

	6年A学級(5月)		5年B学級(7月)
	1回目	2回目	
議題の種類	1		
議題の選定		1	
話し合いの流れ	1	(3)	4
話し合いルール		1	1
話し合いの論点			2(1*)
決定方法	1	1(1)	(1)
決定方法(技術)			
感情的側面			2

注1. 複数の内容に該当する場合はそれぞれに分類した.
注2. 括弧内は児童の発言へのフィードバック(*印は肯定的フィードバック)を含むもの。括弧内外の合計数が総介入数.

付　記

科学研究費（基盤研究(C)，課題番号 17K04343，研究代表者　岩田美保）の助成を受けた。